

平成26年11月13日  
千葉大学

「創作狂言 ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」公演について

このたび、千葉大学では、公益財団法人千葉県文化振興財団と連携して、下記の通り、「創作狂言 ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」を上演することになりました。これは、千葉大学 普遍教育 教養展開科目「伝統文化をつくる」の授業を通じて、狂言師の指導の下、学生が台本作りや小道具作り、チラシ作成などを行ってきたものです。

この創作狂言は、房総に伝わる文化や伝承をもとに、新たな創作狂言を作っていくプロジェクトです。和泉流狂言師小笠原匡を中心に、公益財団法人千葉県ならびに市文化振興財団、NPO法人フォーエヴァー、市民、そして千葉大学が連携して、「見る、知る、伝える千葉～創作狂言～運営委員会」を構成し、運営しています。

今回の公演は、房総半島に伝わるヤマトタケル伝説を取り上げ、舞台化します。東国を征服するために訪れるヤマトタケルと、それに対峙する房総の海の住人達。双方による立ち回り、ヤマトタケルとその妻オトタチバナヒメによる夫婦愛などを描いています。現代的な風刺をも盛り込みながら、魅力的な舞台に仕上がりがつつあります。

なお、本公演は、第一部に古典狂言「酔薑（すはじかみ）」の上演も行われます。

つきましては、多くの方々にご覧頂きたく、ご案内申し上げます。

記

公演名：「創作狂言 ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」

<千葉公演>

日 時：11月29日（土） 13時30分開場、14時開演  
場 所：千葉県文化会館 小ホール  
料 金：〔全席指定〕大人 2,000円、学生 1,000円

<東総公演>

日 時：11月30日（日） 13時30分開場、14時開演  
場 所：千葉県東総文化会館 小ホール  
料 金：〔全席指定〕大人 2,000円、学生 1,000円

詳細はこちら→<http://www.cbs.or.jp/zaidan/kyogen/index.html>

〔添付資料〕

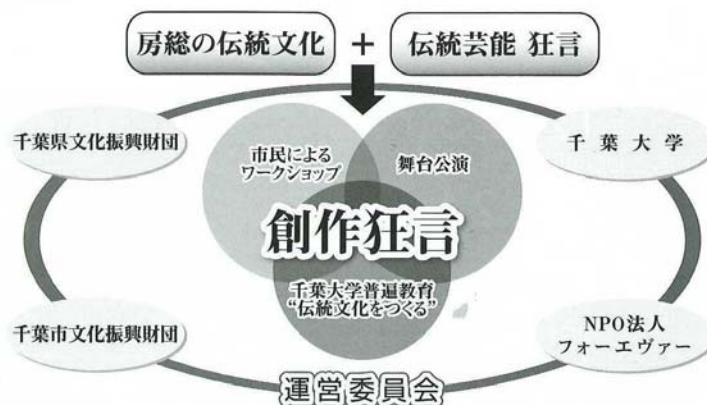
- 1) 「見る、知る、伝える千葉 創作狂言 ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」概要
- 2) 「創作狂言 ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」ポスター

本件に関するお問い合わせ先  
千葉大学学務部教務課教務係  
Tel : 043-290-3613  
E-mail : dcf3613@office.chiba-u.jp

# 「見る、知る、伝える千葉～創作狂言～」とは

～古くて、新しい伝統文化への取り組み～

房総に伝えられてきた、民話や伝承をもとに和泉流狂言師 小笠原匡（おがさわらただし）、千葉大学、公益財団法人千葉県文化振興財団、公益財団法人千葉市文化振興財団、市民が新たに創り上げてきた狂言です。千葉大学、県・市の文化振興財団、NPO法人フォーエヴァーで運営委員会をつくり運営を行っています。これまでに「千葉わらい」「千葉の羽衣」「鬼の来迎」「オトタチバナヒメ」「水戸黄門と藪知らず」という作品を創り、上演してきました。



今回の創作狂言「ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」は、房総半島に伝わるヤマトタケル伝説をもとに創作されており、平成21年の創作狂言「オトタチバナヒメ」の再演にあたります。前回の内容をベースに大学生のユニークな発想を盛り込み、創作狂言の利点をいかしたより新しいものになっております。

内容は、東国（アヅマの国）を征服するために訪れるヤマトタケルと、それに対峙する房総の海の住人達の双方による立ち回り、ヤマトタケルとその妻オトタチバナヒメによる夫婦愛などを描いています。

現代的な風刺をも盛り込みながら、千葉県で獲れる海の幸を登場させるなど、より千葉県に親しみを持てるような舞台を目指しています。

つきましては、多くの方々にご覧頂きたく、ご案内申し上げます。

## ヤマトタケルとオトタチバナヒメについて

ヤマトタケルは、奈良時代に成立した「古事記」「日本書紀」に登場する人物です。ある時、父である第12代景行天皇に命じられ、乱暴な神々や、天皇に従わない人々を征伐するべく遠征を行いました。ヤマトタケルはそうして、次々と征圧に成功していったため、英雄として語られています。今回の狂言は、ヤマトタケルの東征途中の話をもとに製作しています。

オトタチバナヒメはヤマトタケルの妃です。ヤマトタケルが東征の折、相模から東へ進み、走水の海から房総へと渡る際に、海が荒れてしまいました。ヤマトタケルを無事に渡らせるため、オトタチバナヒメは海神に身を捧げます。オトタチバナヒメが身に着けた櫛や布などの遺物が海岸に漂着し、地名の由来となったともいわれています。また、ヤマトタケルが東征を果たした帰路で足柄峠の頂きに立ち、「あづまはや」（ああ、我が妻よ）とオトタチバナヒメをしのんで嘆いたといわれており、「東国（あづまのくに）」と呼ばれる起源にもなっています。



前回(平成21年)公演の様子

## ・千葉大学の取り組み

千葉大学の学生は普遍教育「伝統文化をつくる」の授業の中で、これまで創ってきた狂言の舞台制作について学び、その伝統を受け継ぎながら台本作り・小道具作り、展示物作成、狂言体験講座への参加などを行っています。



## ・NPO法人フォーエヴァーの取り組み

NPO法人フォーエヴァーは、千葉に芸術文化を根付かせるために活動している団体です。これまでに本事業では、様々な公演運営のネットワークやノウハウを活用し、市民のワークショップおよび公演、指導者のサポートなど、全体を通して運営を支えています。

## ・狂言体験講座

公募によって集まった受講生は5回の狂言体験講座を経て、創作狂言公演に出演します。講座では基本となる発声やすり足など狂言のいろはから学び、セリフの言いまわしや所作を習得し、公演の出演者としての技術を身につけることができます。

公演では、衣裳やお面を身につけ、狂言師と共演します。



講座開催日：10/10（金）、10/20（月）、  
11/10（月）、11/17（月）、  
11/28（金）

おがさわら 小笠原 匡（作・演出）



1965年東京生まれ。初世野村萬（芸団協会会長・人間国宝・文化功労者・芸術院会員）、故8世野村万蔵、9世野村万蔵に師事。すでに狂言の大曲である「奈須与市語」「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」を披く。また、新作狂言「鉢かづき」などの作・演出を手がける。さらに、能・狂言・文楽・落語・講談・和太鼓という6つのジャンルのコラボレーションをめざした「風流」を主宰して、「刀こぶ」「良忍さん」「石川五右衛門」などを作・演出する。愛知万博開催記念特別公演「ふるさとの四季」作・演出・主演。2005年はNHK大河ドラマ「義経」、2006年はNHK金曜時代劇「出雲の阿国」の芸能指導を担当した。2007年には「狂言と鼓童のコラボレーション・蓬萊貴譚」を作・演出する。現在、萬狂言関西支部代表、重要無形文化財総合指定保持者、(社)日本能楽会会員、(社)能楽協会会員、千葉大学客員教授、佐渡「鼓童」指導講師。

# 千葉大学（伝統文化をつくる）の授業について

授業では、学生たちは、舞台・小道具・展示・広報の4つの班に分かれて活動を行っています。それぞれの班の活動内容を含む学生からのコメントを紹介します。

## ・舞台班

舞台班の役割は、「伝統文化をつくる」の授業を通して完成した創作狂言に実際に出演することです。舞台に出演するにあたり、一緒に出演する市民の方々とのワークショップに参加し、舞台の練習も行います。また、公演当日は開演前の受付対応なども行います。公演に向けての練習は後期から本格化するため、前期は広報班とともに活動しました。「伝統文化をつくる」の授業では、実際に狂言師として活躍する小笠原匡先生が講師として指導してくださっています。私たち舞台班は、小笠原先生の指導の下、創作狂言の出演者としてこの授業を他班とともににつくっていきたいと考えます。



## ・展示班

私たち展示班は、舞台で配布される当該演目のプログラムと、会場で設営されるパネルの文章・レイアウト作成を主な活動内容としています。プログラムとパネルの性質の違いを考慮しつつ、どちらに何を載せるべきかという取捨選択を、班員みんなで話し合っています。その際には、狂言をよりわかりやすく見てもらう、より狂言の世界を深く知ってもらうということを念頭に置き取り組んでいます。また、狂言を始めてみる方を含む幅広い客層に対応するため、レイアウトは「見やすくわかりやすい」をテーマとしています。班員の意見のみに縛られず、授業中に出された他の学生・先生方の意見を柔軟に取り入れながら、作業を進めています。

## ・衣装・小道具班

小道具班では今回の公演で使う小道具と衣装を作成しています。この公演では舞台が古代です。そのため、資料が非常に少ないのですが、それを参考にしながら自分たちで衣装を考え、先生方から意見をもらいつつデザインを決めました。早めに小道具・衣装を使用した練習ができるように夏休みから積極的に製作に取り組んでいます。製作しているのは冠などの装飾品や、一部の役者の衣装などです。舞台中では大胆に主張しないものの演技には花を添える、そのような小道具と衣装を目指しています。



## ・広報班

広報班は様々な方面に向けて公演の宣伝を行っています。他班のように直接的に舞台にかかわれる機会は少ないですが、少しでも多くの方にお越しいただけるよう工夫を凝らしながら精いっぱい宣伝活動をしています。これまではあまり利用されていなかった SNS サイトやブログなども積極的に活用するなど、初めてのことに挑戦し、チケット完売という目標を掲げて活動しています。

見る、知る、伝える千葉～創作狂言～プロジェクトホームページ

<http://www.cbs.or.jp/zaidan/kyogen/index.html>

学生ブログやこれまでに行ってきた公演の内容の記載もあります。



# 《事業概要》

1 事業名 見る、知る、伝える千葉 創作狂言「ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」

## 2 公演

(1) 千葉公演 平成26年11月29日(土) 千葉県文化会館 小ホール  
14時開演 13時30分開場  
全席自由2,000円 学生1,000円

(2) 東総公演 平成26年11月30日(日) 千葉県東総文化会館 小ホール  
14時開演 13時30分開場  
全席自由2,000円 学生1,000円

3 内容 第一部 レクチャー&デモンストレーション  
袴狂言「酢薑(すはじかみ)」  
第二部 創作狂言「ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」

4 出演 小笠原 匡、山本豪一、泉 慎也、加藤充華、  
若菜の会、千葉大学学生、狂言体験講座受講者

## 5 プレイガイド

千葉県文化会館 043-222-0201

千葉県東総文化会館 0479-64-2001

インターネット予約 <http://www.cbs.or.jp/> 他

6 主催 公益財団法人千葉県文化振興財団 043-222-0077  
公益財団法人千葉市文化振興財団

7 お問い合わせ 千葉県文化会館 043-222-0201  
千葉県東総文化会館 0479-64-2001





芸術文化振興基金



<千葉公演>

平成26年 11月29日 (土)

千葉県文化会館 小ホール  
開演14時 (開場13時30分)

<東総公演>

平成26年 11月30日 (日)

千葉県東総文化会館 小ホール  
開演14時 (開場13時30分)

全席自由 2,000円 学生1,000円

※入場料金は税込み価格となります  
※未就学児の入場はご遠慮ください



# ヤマトタケルと オトタチバナヒメ

見る、知る、伝える千葉  
創作狂言

古典の世界に、  
現代夫婦が登場!?



第1部 レクチャー&デモンストレーション

袴狂言「<sup>すはじかみ</sup>酢薑」 シテ/酢売り 小笠原 匡  
アド/薑売り 泉 慎也

第2部 創作狂言「ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」

作・演出/小笠原 匡 制作協力/千葉大学  
小笠原 匡 山本豪一 泉慎也 加藤充華  
若菜の会 千葉大学学生 狂言体験講座受講者

プレイガイド

(千葉・東総共通)

インターネット予約 <http://www.cbs.or.jp/>  
千葉県文化会館 043-222-0201  
千葉県東総文化会館 0479-64-2001

(千葉公演)

千葉市文化センター 043-224-8211  
千葉市民会館 043-224-2431  
千葉市若葉文化ホール 043-237-1911  
京葉銀行文化プラザ 043-202-1790  
千葉市男女共同参画センター 043-209-8771  
千葉市美浜文化ホール 043-270-5619

(東総公演)

サンモールインフォメーション 0479-63-9201  
三川屋国道店 0479-63-7181  
三川屋駅前店 0479-63-5681  
ラブインカワ 0479-62-0902  
多田屋八日市場国道店 0479-73-5311  
オワリ楽器銚子店 0479-22-0711

【主催】公益財団法人千葉県文化振興財団 / 公益財団法人千葉市文化振興財団

【後援】千葉県 / 千葉県教育委員会 / 千葉市 / 千葉市教育委員会 /  
銚子市教育委員会 / 旭市教育委員会 / 匝瑳市教育委員会

【運営】見る、知る、伝える千葉～創作狂言～運営委員会 【助成】芸術文化振興基金

【協力】ちば文化振興ネットワーク協議会 【チラシデザイン】千葉大学文学部2年 只木琴音

HPからも  
アクセス  
できます!!



(公財)千葉県文化振興財団 公式ページ  
<http://www.cbs.or.jp/>



第一部	<p>レクチャー&amp; デモンストレーション</p> <p>講師 小笠原 匡</p>	<p>狂言についての知識や演技方法を、実演を交えながら解りやすく説明します。狂言については、歴史、簡素な舞台の意味など、演技方法については、道行き（場面が変わるときに用いる）・擬音（効果音、動物の鳴き声などの表現）・小道具（扇の使い方）など、狂言の独特な約束事をお話します。</p> <p>今回は特別に会場の皆様と一緒に「笑い」や「泣き」など喜怒哀楽の表現を楽しく体験していただきます。</p>
	<p>袴狂言「<sup>すはじかみ</sup>酢薑」</p> <p>シテ 酢売り 小笠原 匡 アド 薑売り 泉 慎也</p>	<p>摂津の国の薑（はじかみ）売りが都に商売に行く途中、和泉の国の酢売りに出会います。お互いにどちらの由緒が正しいか言い争いになりますが優劣がつきません。そこで秀句（駄洒落）を言い合うこととなりますが、やはり決着がつかず、最後には、お互いの秀句の機知を褒め合い和解します。</p> <p>二人の秀句の掛け合いは、現在の漫才に通じるものがあります。</p>
第二部	<p>創作狂言 「ヤマトタケルとオトタチバナヒメ」</p> <p>小笠原 匡、 山本豪一、泉慎也、加藤充華、 若菜の会、千葉大学学生、 狂言体験講座受講者</p> <p>作・演出 小笠原 匡 製作協力 千葉大学</p>	<p>景行天皇の皇子ヤマトタケルが、アヅマの国を征服するために、「内つ海」を渡って房総に行こうとしているのを聞き、竜王と海の仲間たちは、どうするか相談をはじめます。そうとは知らないタケルは、走水に到着。海に向かって悪口を並べ立てるタケルに、海の者たちの怒りが爆発し、よってたかってタケルを踏みつけてしまいました。それを聞き、駆け付けて来たタケルの后オトタチバナヒメは、愛する夫をボコボコにされて怒り心頭。ふがいない夫を叱咤して、仕返しするよう追い立てます。</p> <p>はたしてこの争いの行方は・・・。</p>



作・演出 <sup>おがさわら</sup> <sup>ただし</sup> 小笠原 匡 和泉流狂言師

1965年東京生まれ。初世野村万蔵（文化功労者・芸術院会員・芸団協会長・人間国宝・能楽協会理事）、故8世野村万蔵、9世野村万蔵に師事。すでに狂言の大曲である「奈須与市語」「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」を披く。また、新作狂言「鉢かづき」「新千葉笑い」「光源氏」等の作・演出を手がける。さらに、能・狂言・文楽・落語・講談・和太鼓という6つのジャンルのコラボレーションをめざした「風流」を主宰して、「刀こぶ」「良忍さん」「石川五右衛門」等を作・演出する。愛知万博開催記念特別公演「ふるさとの四季」や「平成版・阿国歌舞伎」作・演出・主演。

2005年はNHK大河ドラマ「義経」、2006年はNHK金曜時代劇「出雲の阿国」の芸能指導を担当した。2007年には「狂言と鼓童のコラボレーション・蓬萊貴譚」を作・演出する。2013年秋放送NHK朝の連続テレビ小説「ごちそうさん」でも所作指導を担当。現在、萬狂言関西支部代表、重要無形文化財総合指定保持者（社）日本能楽会会員（公社）能楽協会会員、千葉大学客員教授、桃山学院大学客員教授、和太鼓集団「鼓童」講師。

ホームページ <http://www.atelier-oga.com/>

## 「見る、知る、伝える千葉～創作狂言～」プロジェクト

古くて新しい伝統文化への取り組み

房総に伝えられてきた民話や伝承をもとに、和泉流狂言師小笠原匡、千葉大学、公益財団法人千葉県文化振興財団、公益財団法人千葉市文化振興財団、市民が新たに創り上げてきた狂言の舞台です。千葉大学、県・市の文化振興財団、NPO法人フォーエヴァーで運営委員会をつくり運営を行っています。これまでに「千葉笑い（千葉市）」「羽衣伝承（千葉市）」「鬼来迎（横芝光町）」「ヤマトタケル伝承（千葉県広域）」「八幡の藪知らず（市川市）」を題材に狂言を創作し、上演してきました。

